

あいち農産物生産流通レポート

平成18年3月号

地域トピックス		
・山間農業の産地活性化へ向けての取組 (新城設楽農林水産事務所)	-----	1
情報サロン		
・「フラワードーム2006(あいち花フェスタ・名古屋国際蘭展) (園芸農産課)	-----	2
東日本情報		
・「日本全国野菜フェア～食べよう!おいしい日本の野菜～」が開催されました (東京事務所)	-----	3
西日本情報		
・沖縄の花き生産・農産物流通について (園芸農産課)	-----	5
青果		
・名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し	-----	7
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	19
フラワーページ		
・輪ギク・安定供給と新たな取組によって消費の再生を目指したい (農業総合試験場企画普及部 伊藤健二)	-----	20
花き		
・切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)	-----	21
輸入		
・主要農産物の輸入実績(2005年12月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部園芸農産課

(052)-954-6417

山間農業の産地活性化へ向けての取組
「動き出した新産直POSシステム（JA愛知東）」

条件不利地域である山間農業では、農業者の高齢化が加速しており、耕作放棄地の拡大等による農業生産の弱体化が顕著である。そのような中、農業者は直売所での手軽な農産物販売に少なからず楽しみを持っており、JA愛知東では地域農業の活性化につなげるため、多様な品目・品種の作付拡大を推進する「園芸品目拡大運動」を展開している。管内には「グリーンセンターしんしろ」「みどりの館」「勇気野菜館」「こんたく長篠」「東栄直売所」の5カ所の施設が設けてられており、産直部会登録会員1,550名で年間3億2千万円（平成17年度見込み）を売上げている。今回、JAでは、これら直売所を通して、農業者の生産拡大や所得向上（年間売上高目標10億円）を目指し、直売所の持つ多くの情報をデータ化し、利活用できる「新産直POS（Point of Sales System）システム」を導入した（山間地営農等振興事業 総事業費：34,700千円）。

新産直POSシステムとは？

直売所5施設（商品）が持つ情報（「いつ」「どこで」「誰の」「何が」「いくつ」「いくらで」）をネットワーク化し、JA本店でリアルタイムに一元管理・情報提供するシステム及びラベル発行システム

メリットは？（どのようなサービスが提供できるの？）

会員毎の商品販売情報を提供

会員毎の最新情報が、1日2回（12時、4時現在）携帯電話へ配信されるとともに、集約情報として、レポートが月1回、農協職員の手により配布される。

最新情報は、当日や翌日の出荷量の調整に活用でき、集約情報は次年度の栽培計画策定の参考資料となる。

会員持ち込み商品及び農協仕入れ商品（品揃えのための補完品目）別の期間売れ筋商品レポート（売上高上位20品目）を店舗毎に掲示

この情報の活用により、売れ筋商品（何が売れているのか：はくさい、だいこん）、会員持ち込み商品（何が栽培されているのか）、補完品目（何を推進品目とするか：ごぼう、たまねぎ）、店舗売上額（地域特性）等を読み取ることができ、販売戦略に向け対応策をとることが可能となる。

園芸品目拡大に向けての具体的な栽培計画の提案

JA営農指導員は、会員の状況（実績）や志向にあった栽培計画（品目）を会員毎にプランニングすることができ、濃密的な営農指導が可能となる。

今後の展開

流通網の整備（配送車の利活用推進：平成17年12月稼働）

店舗毎の販売状況に応じて（欠品しないように）、直売所間の商品の融通や会員からの速やかな出荷に対して円滑な対応ができるようなシステムづくりの構築を進めていく。

会員間のネットワークづくり

具体的な推進品目の拡大による農家間同士の新たなグループ（例：ネギ、果菜類、地域等）づくりを進めていく。



利用料金は年間2,400円

＜販賣品目別売上商品＞			
期間別売上商品レポート 平成17年12月			
品目	単価(円)	数量	売上高(円)
1	33	247	4,254
2	141	47	3,620
3	141	27	3,430
4	296	7	3,070
5	25	113	2,980

＜農協仕入れ商品＞			
（品揃えのための補完品目）			
期間別売上商品レポート 平成17年12月			
品目	単価(円)	数量	売上高(円)
1	119	154	1,667
2	113	179	1,273
3	224	77	1,066
4	204	129	834
5	146	299	703

店舗毎に掲示される
（平均単価は販売価格の目安となる）

「フラワードーム2006（あいち花フェスタ・名古屋国際蘭展） の開催について」

日本最大級のフラワーイベント

このイベントは、全国一の産出額を誇る愛知の花々を装飾展示し、花の生産者と消費者の交流を通じ、花き産業と花きに関する文化の振興を図ることを目的に開催されます。

平成9年度から始まり本年度で7回目となりますが、花への関心の高さから毎年十数万人の来場により盛況に開催されています。本年度も趣向を凝らして来場の方々に満足していただけるよう鋭意準備が進められており、多数の来場が期待されます。

フラワードーム2006の見どころ

- 会場中央の白亜の宮殿をイメージしたオブジェ内での花巡り
- 蘭の女神に例えられる高貴な雰囲気をもつ蘭「リカステ」の展示
- 品質の高い愛知の花々と国内外の蘭によるフラワーコンテスト
- ドームの壮大な空間を利用したディスプレイコンテスト
- 愛知の花で装飾した写真スポット「幸せの咲く鐘」
- 芳香から驚きの香りまで個性ある香りの花々の展示
- 花き種苗業者による最新花きの紹介

その他多数の催し

約80店もの専門店が並ぶ販売コーナーでは、生花・苗・園芸用品などがお値打ちにお求めになれます。

さらに、ステージイベントとして一流講師を迎えての園芸教室、世界的フラワーアーティストによるフラワーデモンストレーションやフラメンコショーなどのプログラムが用意されています。

また、日本の伝統美「いけばな」の粋を極めた作品の創作展示なども行われます。

会期 平成18年3月17日（金）
～ 3月22日（水）

場所 ナゴヤドーム
（地下鉄・ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前
矢田」駅、JR・名鉄「大曽根」駅下車）

入場料
前売券 大人 1,500 円、中・高生 1,000 円
当日券 大人 1,800 円、中・高生 1,200 円
チケット 900 円（18日（土）当日券のみ）
小学生以下は無料



前回のディスプレイコンテスト作品

日本全国野菜フェア～食べよう!おいしい日本の野菜～が開催されました

平成18年2月6日・7日の2日間、東京国際フォーラムにおいて「第1回日本全国野菜フェア」(主催 青果物健康推進委員会 後援 農林水産省)が開催されました。

この催しは近年、家庭で野菜を調理することが減少する一方で、レストランや惣菜・弁当などを利用する「食の外部化」が進んでいることを受けて、外食・中食産業における野菜の消費拡大とともに、一般消費者に対して野菜の摂取を促進することを目的として行われました。

会場にはJ Aグループによる品目別ゾーンと産地別ゾーン、企業・団体の展示ゾーンが設けられて、野菜に関する多くの情報が提供されていました。

このうち品目別ゾーンでは、主要野菜として19品目の野菜が紹介され、主要な産地のJ A担当者が一緒になって参加者への対応を行っていました。

季節ごとの主な産地や品種、国産野菜が各産地をリレーしながら周年を通して供給されている状況やトレーサビリティへの取組、それぞれの野菜の栄養素の説明などもパネルで展示され、外食・中食産業での消費拡大を意識したものとなっていました。



【品目別ゾーン(キャベツブース)】

キャベツのブースでは現在、出荷の最盛期を迎えている愛知県産のキャベツが他の産地のものと合わせて紹介されていました。

品目別ブースで紹介されていた19品目の野菜とその主要産地

だいこん	北海道/青森/千葉/神奈川/岐阜
たまねぎ	北海道/宮城/栃木/愛知/兵庫/佐賀
じゃがいも	北海道/青森/長崎/鹿児島
にら	北海道/福島/茨城/栃木/群馬/高知/宮崎
ほうれんそう	北海道/岩手/群馬/栃木/岐阜
ごぼう	北海道/青森/群馬/宮崎
やまのいも	北海道/青森/秋田/長野/千葉/埼玉/群馬
きゃべつ	北海道/青森/岩手/宮城/群馬/千葉/神奈川/長野/愛知
ねぎ	北海道/青森/岩手/秋田/宮城/茨城/群馬/栃木/埼玉/千葉/鳥取/大分
はくさい	北海道/宮城/茨城/群馬/長野/愛知
にんじん	北海道/青森/茨城/埼玉/千葉/愛知/長崎
レタス	北海道/岩手/茨城/群馬/栃木/千葉/長野/静岡
ブロッコリー	北海道/栃木/群馬/埼玉/長野/愛知
ピーマン	北海道/青森/岩手/福島/茨城/長野/高知/宮崎
きゅうり	北海道/青森/岩手/秋田/福島/栃木/群馬/埼玉/千葉/神奈川/長野/愛知/高知/福岡/宮崎
トマト	北海道/青森/岩手/秋田/栃木/群馬/千葉/神奈川/長野/岐阜/愛知/福岡/熊本/宮崎
なす	栃木/群馬/埼玉/愛知/高知/福岡/熊本
セロリ	長野/静岡
アスパラガス	北海道/秋田/福島/栃木/群馬/長野/佐賀/長崎

また、産地別ゾーンでは主要野菜19品目以外の各産地の野菜が紹介されていました。愛知のブースではJAあいち経済連による愛知産の野菜の展示等が行われました。

展示された品目は「ふき」、「おおば」、「小菊」、「いちご」で、春の訪れを感じさせる「ふき」は試食として提供し、近年の健康志向の高まりからも関心の高い「おおば」は煮出したおおばジュースの試飲を行い、「いちご」は愛知で開発された新品種「ゆめのか」の展示が行われ参加者の関心を集めていました。



【生産者ゾーン（愛知ブース）】

また、会場内には「国産野菜 ^{たのしみ} 楽試味コーナー」が設けられ、野菜を材料にした様々なメニューの試食が行われていました。

試食のメニューでは野菜そのものの味をいかしたものが提供されており、多くの人でにぎわいを見せていました。

その他にも外食・中食産業の動向、業務用需要への対応についてのセミナーや、野菜摂取推進活動を行っているベジフルティーチャーによる野菜に関する栄養や効果などのセミナー、「野菜フォーラム2006～食べて健康！野菜と果物～」、「加工・業務用野菜推進シンポジウム～これでもいいのか 加工・業務用野菜への取り組み～」と題した講演会の開催など、国産野菜の消費拡大を目的とした幅広い企画が盛り沢山の催しでした。



【国産野菜 楽試味コーナー】

会場では農産物の販売などは行われなかったものの一般の方も多く参加して2日間の入場者数は約15,000人で、マスクミでも数多く紹介されるなど国産野菜の消費拡大への関心の高さがうかがわれました。



【会場内イベントステージ】

沖縄の花き生産・農産物流通について

沖縄県のキク産出額は本県について第2位（平成16年）である。その大半は小菊であるが今後、輪菊、スプレー菊の生産への転換が考えられるため、本県きくの生産振興のためにはその動向を把握しておく必要がある。また、近年、市場流通におけるコールドチェーンの必要性が叫ばれるなか、沖縄は一年を通して気温が高いため、特にコールドチェーンへの取組が急務となっている。本県におけるよりよい花きの生産・出荷や市場施設整備の推進に資するため、沖縄の花き生産や農産物流通事情を調査した。

1 JA 沖縄園芸部

花き集出荷体制

石垣島等の離島を含め沖縄県全土からの荷がこの広域流通センター（沖縄県浦添市）に一度全部集められ、ここから県内外に輸送されるシステムとなっている。

愛知への花き出荷状況

福花園、ヤマエ生花など4社と取引がある。輸送ルートは大阪を経由しての出荷が多い。

花き輸送方法等

船と航空機と併用。航空機の方がコストがかかるので船便の割合が高くなってきている。船便は需要に合わせて逆算して出荷日を調整している。

フェリーの燃料代が値上がりしているその分負担が増えている。

組織体制

共販率はほぼ100%、14年4月に沖縄経済連と沖縄農協が事業統合して集出荷・販売の一元化体制を整えた。生産者に対して末端需要に合わせた作付体制・品種などの誘導に力を入れている。

作付品目について

冬場は主に小菊を生産している。管内に500名弱の小菊の生産者がいる。

スプレー菊は露地や簡易施設で生産するため品質が不安定で、また内地ほどの価格が得られないため、小菊を栽培しているのが現状である。

2 沖縄農協具志頭集荷場周辺

具志頭地区の概況等

琉球石灰岩の土地で水はけが良い。キク農家36名の内14名に30歳代の後継者がいる。栽培品種は黄色の小菊がメインでその他の色（赤、白）も1色は作付を指導している。また輪菊、スプレー菊も今後作付することを思案している。

この地区は平均10m/秒の風が吹き以前から台風時期を含め防風対策が求められていた。そこで登場したのが平張りハウスである。

平張りハウス

5年前から国・県から7割の補助金を受け平張りハウスを導入して、成果を得ている。今後も平張りハウスに合わせた品種選定や作付体系の見直しなど平張りハウス体制の確立を目指している。



平張りハウスの概観

平張りハウス・・・ビニールハウスやガラス温室より簡易なもので、天井は平坦な形状をしていて側面は約0.6mmのネットが張っており、防風（露地栽培と比べても被害が少なくなる）と害虫よけの役目を果たしている。

高さ230cm程度、経費は9,260円/坪と非常に安価（写真参考）

3 沖縄県中央卸売市場

市場の概要

昭和59年4月に開設した市場で青果部、花き部（平成9年開設）がある。港の近くに位置し、平成16年度の取扱数量は青果部で76,627トン、花き部で切花3,945万本である。

流通の特異性

離島のため、県外からは船舶輸送が主流である。

船便は、鹿児島（毎日：1泊2日）、福岡・大阪（週3便：2泊3日）、東京・名古屋（週2～3便：2泊3日）、例えば、名古屋を月曜日に出航すると水曜日入港、木曜日市場販売となる。

低温流通の現状

夏秋季（6～10月）は、市場内の夜温が平均29.5にもなるので、その対策が市場としては最重要課題である。荷は、土もの類は通常温度で入荷するが、葉もの、根菜、果菜類は保冷状態のまま入荷する。

航空便のものは即日入荷で鮮度も良いが、ハンドリングが多いため荷傷みが見られる場合もある。船舶輸送は産地から市場まで冷蔵シャーシコンテナによる一貫輸送のため評価は高い。

市場のコールドチェーン率は低く、せり開始時間を午前6時と早くして、市場での滞留時間を短くなるように心がけている。

定温・保冷施設等整備の状況

開場当初から保管に係る冷蔵施設は整備されていたが、低温売場は建設計画がなく整備されていなかった。しかし、卸売場の高温は特に軟弱野菜において深刻で、卸売場の低温化施設を増設することとなった。

開場後すぐということもあり補助事業は活用せず、奈良県中央卸売市場をモデルとし、翌年には、卸売会社の単独経費で施設を完成させた。

開設者施設である冷蔵庫6基は、平成17年度に4基、平成18年度に2基更新し、すべての更新を完了する予定である。

今後の事業計画

平成18年に卸売市場の一部低温化を行う予定（710㎡：事業費39百万円）でカーテンシャッターによる外気遮温と冷房機新設である。

（補助事業名：高鮮度保持システム実証事業、内閣府（沖縄振興局）予算）

補助事業の位置づけについては、ゴーヤー及びマンゴーを対象に、品質を劣化させず安定流通させるためのコールドチェーン化を実証することである。また、沖縄県は観光立県であり、県産品への関心が高く、飲食店では県産品の指定買いが多い。

その他

花き部の切り花のせり時間は現在午後4時からであるが、市場活性化のためにも、せり開始時間を前倒しできるよう検討している。

4 まとめ

(1) 花き生産出荷・販売について

沖縄県は農協と経済連が事業統合を行い、生産出荷・販売体制が一元化されたことによりニーズに対応した生産が可能となった。本県においてもこれに対応すべく、生産部門と販売部門との連携をより強めていく必要がある。

また沖縄においては小菊主流の生産は今後も変わらず、スプレー菊の生産増大はないと見込まれる。

花きの平張りハウスは沖縄県の気候に配慮した施設であるが、施設整備費がビニール・ハウスなどに比べて大変安価である。年々花き価格が安くなっていて、費用対効果がより求められる花き生産において、この平張りハウスは本県においても導入の可能性を検討していく必要がある。

(2) 新たな卸売市場における施設整備について

全国の市場における卸売場は、現在でも空調を必要と考慮せず、熱気などを上部に逃がすように天井は約7m（名古屋市中央の北部市場の例）と高い構造となっており、建設後の保冷手段としては、天井高を下げカーテンを密閉した上での空調が主流である。

市場流通においてより品質管理が求められる中、特にコールドチェーンはそのひとつとして重要である。夏場には冷房を、また花きについては冬場に暖房を要するので、新たな施設整備は全期間全施設での空調を前提として、低い天井やパーテーションをしやすい構造とすることが必要である。

愛知産青果物の動向

名古屋市中心卸売市場(ふき)

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	207	201 (97%)	293	288	岐阜 (2%) 徳島 (1%)
18年見通し	200	-	300	-	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>12月以降の冷え込みにより生育が遅れていたが、このところ暖かい日が続き、出荷量は回復してきており、病害虫の発生等もなく、品質は良好。</p> <p>3月の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込みだが、今後の天候によっては出荷量がさらに増加し、価格もお値打ちになる可能性もある。</p>			<p>ふきは春の食材として、たけのことセットで確実な需要がある。若い人はスジ取りなどの手間を嫌ってあまり食べない傾向にあるが、3月には「花粉症に良い食材」としてテレビ放映も予定されており、販売環境はかなり良くなるのではないかとと思われる。</p> <p>産地への要望としては、近年は生産面積が減少傾向にあるが、ふきは愛知県の伝統ある野菜であり、需要も堅い野菜なので、生産量の維持をお願いしたい。</p>		

東京都中央卸売市場(ブロッコリー)

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	1,935	1,073 (55%)	289	301	中国 (16%) アメリカ (12%)
18年見通し	2,000	-	200	-	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知が入荷の5割強を占め、中国、アメリカの輸入物がそれに続く。11月以降の冷え込みにより、入荷量が少なく高値が続いた。年明けからは徐々に入荷量が回復してきており、今後は気温の上昇とともに入荷量が増加する見込み。輸入量についてはほぼ前年並みで推移する見込みである。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>			<p>ブロッコリーに対する消費者の選択は二分化されてきており、小売段階では国産品と輸入品を両方扱う店も目立つようになってきている。食の安全に対する消費者の関心は高まっているので、品質のよいものを出荷してもらえば評価はついてくる。これまでは品質には問題は少ないが、今後は気温の上昇に伴い品質低下が懸念されるので、適期収穫による品質保持に努めて欲しい。</p>		

輪ギク 安定供給と新たな取組によって消費の再生を目指したい

キクは切花の代表ですが、仏花 = 葬式の花というイメージが定着し、盆・彼岸・正月などの物日を除いて専門店の売場で見かけることはありません。高齢化社会を迎えた今、キクが備えている花の美しさ、落ち着いたある香り、日持ち性の良さなどを再評価し、消費の再生(ルネサンス)を目指すべき時を迎えていると考えます。

【輪ギクは全国をリードする作目、生産は白ギクに特化している】

切花ギクは、花き算出額の約45%を占める本県花きの代表的な作物です。特に輪ギクは、生産戸数約1,900戸で出荷量446,900千本に達し、全国の約40%を生産しています。

栽培品種の構成は、白系88.1%、黄系10.5%、赤系1.4%で、白色品種に特化した生産となっています。そして、白ギク品種のうち「精興の誠」、「神馬」、「岩の白扇」の3品種で92%を占めていますが、いずれの品種も何らかの欠点を持っており完璧ではありません。

農業総合試験場では、平成14年度から県花き連きく部会との共同研究により実用性の高い新品種の育成に取り組んでおり、平成16年には「清流の朝」を、平成17年10月には「白翠(仮称)」を種苗登録申請しました。

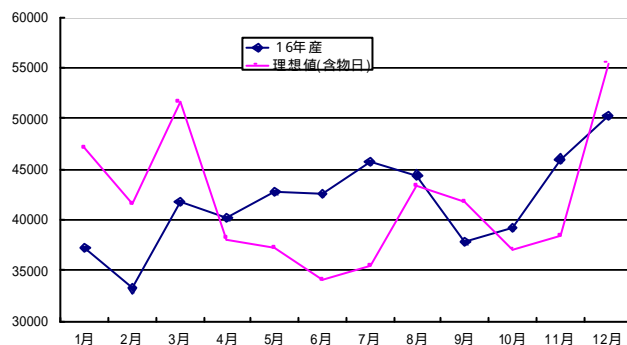
特に「白翠(仮称)」は水揚げ、花保ちに優れ「精興の誠」に代わる品種として期待されており、年間1億本の生産を目標に掲げ、普及推進すべき品種と位置づけています。今後はさらに白色だけでなく、黄色や赤色品種、様々な花形の品種の育成が期待されています。



写真 期待の新品種「白翠(仮称)」

【年間安定供給を目指す】

平成16年産の月別出荷量を図示しました。図中の理想値は、業務需要に物日需要を加えた年間の消費ニーズの変化を想定した値ですが、図から1~2月の冬期と3月・9月の彼岸、年末の物日需要期に不足気味で、逆に5~7月、11月は過剰気味であったことが伺えます。今後は、消費ニーズに合わせた計画的、安定的な供給を目指す必要があります。



輪ギクの月別出荷量(単位:千本、16年産、需給調整会議資料)

【キクのルネサンスを目標に新たな展開を】

消費者から業務用や仏花用だけでなく、普段玄関や居間、食卓に飾る花としての再評価を得るためには白ギクへの集中を避け、黄色や赤色、その他の花色や花形の変化に富んだ品種の積極的な導入が必要です。また、バケツ流通などの新しい流通形態を取り入れることによって咲き前を変えた出荷を可能にするなど、先駆的な取り組みを推進する必要があります。さらにキクの色や香りが人に良い影響を与えるなどの「機能性の解明」にも他業種・他機関と連携して取り組むことによって消費拡大を目指したいものです。

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	食料	穀類	生鮮野菜	生鮮果物
		全 国 平成12年 = 100				
		愛知県 平成12年 = 100				
全 国	16年平均	98.1	99.3	102.4	110.5	100.3
	17年 8月	97.7	97.4	95.9	93.7	95.2
	9月	98.0	97.8	95.7	104.6	92.6
	10月	98.1	97.9	95.1	101.8	98.4
	11月	97.8	97.4	94.8	98.4	90.8
	12月	98.0	97.5	94.4	100.2	87.5
愛 知 県	16年平均	98.2	99.5	101.4	111.4	94.5
	17年 8月	97.5	97.6	93.9	97.4	93.7
	9月	97.7	98.3	94.2	104.4	93.9
	10月	97.6	98.1	94.3	105.2	93.9
	11月	97.5	98.6	94.3	103.6	94.0
	12月	97.5	99.4	93.7	105.0	89.6

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	花き
16年平均		105.7	102.4	115.2	99.6	109.4
17年 8月		91.2	93.6	77.4	97.0	88.6
9月		99.6	92.6	103.0	80.4	106.4
10月		96.0	89.9	99.0	76.4	97.6
11月		95.4	89.8	96.1	74.1	111.7
12月		100.2	88.1	109.2	73.2	132.6

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単-5kg、 「比加」以外)	キャベツ	ほうれんそう	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	なす	トマト
	5 kg	1 kg											
16年平均	2,633	189	922	203	632	567	270	178	310	205	570	621	632
17年 8月	2,657	106	1,024	162	599	282	354	157	372	205	385	457	536
9月	2,250	122	1,244	189	606	397	310	182	304	214	525	558	654
10月	2,295	117	978	152	615	375	272	142	318	205	469	469	712
11月	2,295	145	754	156	583	385	278	152	285	210	607	544	765
12月	2,275	177	855	150	643	428	270	120	280	208	597	586	699
品目 単位 年月	ピーマン	生しいたけ	りんごふじ	みかん	グレフ イル プー ツ	オレ ンジ	いちご	バナナ	キウイ フルーツ	緑へ せ 茶 茶	カ ー ネ シ ョ ン	き く	パ ラ
	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本			
16年平均	68	181	486	555	316	378	146	245	690	618	162	174	316
17年 8月	64	187	627	-	308	368	-	239	712	617	151	168	294
9月	58	174	-	913	277	376	-	238	723	617	149	174	298
10月	58	177	-	609	248	340	-	231	649	617	149	160	298
11月	67	172	494	366	264	378	-	232	682	617	151	168	298
12月	64	186	421	373	347	363	-	220	651	617	160	171	322

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	:	± 2 % 台以内
やや	:	± 3 ~ 5 % 台
かなり	:	± 6 ~ 15 % 台
大幅	:	± 16 % 以上



あいち農産物生産流通レポート 393
平成18年3月発行
農林水産部園芸農産課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417